



震災を超えて、 こどもたちの未来のために

富山県経営管理部長

南里 明日香 NANRI Asuka

平成 18年 4月 総務省採用
同 自治行政局自治政策課
平成 18年 8月 徳島県民環境部地域振興局市町村課
平成 19年 5月 同 企画総務部財政課
平成 20年 4月 外務省国際協力局総合計画課
平成 21年 7月 同 国際協力局開発協力総括課開発協力企画室
平成 22年 4月 総務省自治財政局調整課
平成 22年 7月 同 自治財政局調整課主査
平成 23年 4月 滋賀県総合政策部企画調整課主席参事
平成 24年 4月 同 総務部自治振興課主席参事
平成 25年 4月 同 琵琶湖環境部環境政策課長
平成 26年 4月 同 総務部市町振興課長
平成 27年 4月 同 総務部財政課長
平成 28年 4月 総務省自治行政局地域自立応援課過疎対策室課長補佐
平成 29年 7月 同 消防庁総務課課長補佐
令和 元年 7月 同 自治財政局地方債課課長補佐
令和 3年 4月 富山県経営管理部次長
令和 4年 4月 同 地方創生局長
令和 5年 4月 現職

震災を超えて

2024年元旦、能登半島地震は起きた。立山連峰が守る富山の「安全神話」が崩れ、震度5強。無残な映像のニュースが流れてくる。職員間のチャットを次々に鳴らし、安否確認、災害対策本部のある庁舎の状況確認、被害状況確認などを行いつつ総務省消防庁への異動希望を出した日のことを思い出していた。

いつ起きるかわからない災害対応を行う消防庁は、子育て中の女性職員が希望する職場ではないのかもしれない。しかし、この激甚化・頻発化する災害と対峙する日本の国土と国民の命を守るためには危機管理を学びたい。家族の理解を得て、2年間消防庁で勤務した。

総務大臣の被災地確認、官邸への迅速な報告、他の消防機関を応援派遣する緊急消防援助隊の出動。トップの判断の在り方、被災者に寄り添う大切さ、自助・共助・公助の絶妙な塩梅など学んだことを思い出しながら、今、被災者の暮らし・生業の再建に挑んでいる。富山の元気が北陸の早期復興につながるよう全力を尽くしたい。

息子の叫び「普通ママはね・・・」

3年前、息子を連れて富山県庁に赴任した。転校と聞いて小学生の息子は泣いた。「ママが転動しなくてもいい！それに普通のママは、2時に小学校から帰ってきたらお家にいるんだよ！僕は学童でママをいつも待って頑張ってるのに！」これは、こたえた。

「暗いニュースばかりの日本を変える仕事かしたい。」「日本を変えるなら地方から。」そう思って総務省を志望した。総務省でコロナ禍の財政運営を支援なく行う制度を作り、自治体の現場で自治行政制度を運用して、なお今その気持ちは変わっていない。が、息子に涙ながらに訴えられて、私も言葉も失った。

・・・それがですよ。富山駅に降り立った息子「うわあ、山、かっこいい！」あつという間に新しい小学校に慣れ、ゲーム三昧だった息子の趣味は、友達の影響で釣りにスキーに。女性の就業率・正社員率が全国トップレベルの富山県、息子の「普通ママ」の認識もどうも変わった様子。「日本は色々だね～」など口にする。人生半分を地方で、つまり子育ての半分を地方でする生活、親子で気に入っている。

君たちはどう生きるか

こんな人生を歩むとは思っていなかった。さあ仕事を頑張ろうと思った矢先に妊娠が発覚して衝撃を受けたり、保育園イヤと泣かれて子連れ出勤したことも、学童から失踪した息子を探しに国会対応を先輩に任せてダッシュで帰宅したこともある。

コロナで休校になった際には上司から「今後テレワークで良い」とあたたかい言葉をかけられるも「同じことを男性職員にも言ってください」と反発したり、「子どもの都合で周囲に負担をかけている以上何か頼まれたときに『できません』だけは言いたくない」と意地を張って仕事が回らず逆に迷惑をかけたこともある。

今、県・市町村職員合同の女性職員のための政策課題研修を立ち上げた。私の失敗談を開陳することはもとより、政策判断に迷ったときは「どっちが得か(省益は?)」ではなく、「子どもたちの未来にとってどっち?」という視点を持つことが許されるのがしがらみのない制度官庁・総務省らしさかも、と思いつきながら、ワークショップを主導している。

皆さんも、日本のカラフルな未来を、一緒に議論してみませんか？

ICT 行政の醍醐味

ICTは、私たちの日常に深く浸透し、生活を送る上で欠かせないインフラとなっています。そしてまた、技術革新に後押しされる形で発展し、個人の生活様式、産業の事業活動など、社会全体に大きな、そして、急速な変革をもたらし続ける存在でもあります。

このような側面を持つICTを誰もがいつでも安全・安心に利用できる環境を確保するため、時代に即した制度・ルールの新設・改廃(いわゆる規制)と、予算措置などを通じたインフラ整備や研究開発などの振興策とを有機的に連携させて、戦略的な対応を進めていくことが総務省に任されたミッションです。産官学民にわたる幅広いステークホルダーとの議論などを重ねつつ、絶え間ない変革の先にある未来を見据えながら目の前の課題解決に挑み続ける環境はとても刺激的です。総務省には、自己実現・自己成長に資する機会が多分に用意されています。

総理官邸で

そして、私は今、総理官邸に出向する機会を得て、

内閣の重要政策に関する広報に携わっています。令和6年能登半島地震への対応をはじめ、「新しい資本主義」を軸とする経済政策、こども・子育て政策、外交・安全保障政策、防災・減災、国土強靱化など、内閣が取り組む重要政策は多岐にわたりますが、いかなる政策であっても、国民の理解や協力なくしては、十分な結果へと結びつけることは困難です。いつ、何を、どのように伝えるのが最も効果的かつ効率的か—テレビ・ラジオ・インターネット・SNSなど、総務省では『ヒトとヒト』、『ヒトとモノ』あるいは『モノとモノ』をつなぐツールとして自身が向き合ってきたICTサービスについて、『政策と国民』をつなぐツールとして捉え直してみることで得られる学びはとても多く、今後また自分が政策の作り手の立場となったとき、こうした学びの成果をぜひ活用していきたいと考えています。

さいごに

今、皆さんは、様々な選択肢を目の前に、進むべき道について思いを馳せていることと思います。どうぞご自身の軸を大切に、悔いの無いよう就職活動に取り組まれてみてください。近い将来、霞が関・総務省で皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。



晴れた休日はサイクリングでリフレッシュ



変革の先にある 未来を見据えて

内閣官房内閣広報室企画官
(内閣広報官付秘書官)

宮野 光一郎 MIYANO Koichiro

平成 17年 4月 総務省採用
同 情報通信政策局放送政策課
平成 18年 8月 同 行政評価局総務課政策評価審査室
平成 19年 7月 同 大臣官房秘書課
平成 20年 7月 同 総合通信基盤局総務課総括係長
平成 21年 7月 同 情報流通行政局情報通信作品振興課企画係長
平成 22年 1月 内閣官房国家戦略室主査
平成 24年 9月 仏国留学(リヴ・ドフィヌ大学)
平成 26年 8月 総務省情報流通行政局郵政行政部郵便課国際企画室課長補佐
平成 28年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課課長補佐
平成 30年 6月 外務省在フランス日本国大使館一等書記官
令和 3年 7月 総務省情報流通行政局総務課統括補佐
令和 4年 7月 現職